

会 議 録

会議の名称	平成28年度 第3回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成29年(2017年)2月23日(木) 18時00分～20時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	5人
公開しなかった理由			
出席者	委員	舟岡 直子 大野 俊介 荻原 まゆみ 天瀬 恵子 松田 美和子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 樋口 名子	
	事務局	北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 島津岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長 永島岡町図書館副館長 河本岡町図書館主査	
	その他	欠席：渥美委員	
議題	1 (仮称)南部コラボセンターにおける図書館機能について 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成28年度（2016年度）第3回図書館協議会

日時：平成29年（2017年）2月23日（木）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 大野 舟岡 荻原 松田 天瀬 岸本（委員長） 瀬戸口 樋口
事務局 北風 須藤 虎杖 松井 島津 山根 永島 河本

開会

資料確認＜事前配布・当日配布＞

【事前配布資料】

第2回豊中市立図書館協議会議事録

（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能について（提言案）

（仮称）南部コラボセンターフロア図と建物概要（案）

外部評価資料1～4

【当日配布資料】

評価システム項目表

大人のための図書館のお仕事体験ツアーIN庄内チラシ

世界のしょうない音楽祭チラシ

「りんごの棚」展示セットチラシ

●委員長

それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則として審議会を公開しており、傍聴については10人を定員にしているが、定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、報告させていただく。

次に前回会議録については事前に送付されたものに委員の方々のご意見はなかったので、公開の際にはお手元の記録と同じように、概要として発言者については個人名を掲載せず、「委員」とのみ表記することを了承いただきたい。

議題は第1回目から引き続き「（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能について」、事務局から提言（案）について、説明を願います。

●事務局

事前資料の(仮称)南部コラボセンターにおける図書館機能について(提言案)説明する。

内容は、これまで2回の協議会での議論をもとに、(仮称)南部コラボセンターの図書館に必要とされる機能についてまとめている。

1pの「はじめに」は委員長に執筆いただき、経緯等について触れられている。2pからはおもに(仮称)南部コラボセンター基本構想より抜粋したコンセプトや基本方針、さらにビジョンについて掲載し、最新のコラボセンターに関する情報として、2月14日に実施された南部地域連携センター主催の市民説明会で配布された資料により、施設の機能整備の基本的な考え方などの抜粋を追加した。4pより「図書館機能について」として、南部地域の図書館、庄内・庄内幸町・高川図書館の現状と現在取り組んでいる事業などについてふれ、この状況を踏まえ子育て支援・学習支援・学校連携・就労支援の4つの機能を中心に、図書館協議会で検討いただいた内容をまとめている。また、4つの機能以外として、高齢者を対象にしたサービスや障害者サービス、サテライトとしての高川図書館についての位置づけなどについてもふれている。10pよりまとめの文章として、図書館が核となり他の機関を有機的につなぐ役割を果たすための蔵書構成やサービス内容など、ハード・ソフト両面の工夫・整備の必要性和防災の拠点となるコラボセンターにおいて、災害時の図書館の役割についても言及し締めくくっている。以上、提言の構成と内容について簡単に報告する。

つぎに、2月14日と18日に行われた(仮称)南部コラボセンターの市民説明会についての報告である。事前配布資料2(仮称)南部コラボセンターフロア図と建物概要(案)については、1階が子ども、2階が青少年、3階が大人、4階が多世代の交流と概ね世代ごとの活用を意図したフロア構成になっている。14日の説明会では多文化共生の視点や障害者も利用しやすいバリアフリーの配慮、自習スペースの必要性、屋上庭園の活用や老人福祉センター、防災倉庫などについての意見が出された。世代別のフロア構想になっていることから、多世代交流ができるよう世代が分断されないような工夫の必要性や図書館については1階と2階が図書館で3階が図書配架となっているがどのようなイメージなのかという質問があり、どことも連携しやすいことからこのイメージとなったとの説明があった。2回目の18日(土)は、図書館としてフロアをつなぐ工夫としてどう考えているのかという質問があり、1階と2階がメインのフロアで3階からの図書の配架についても図書館が連携しながらタイアップして、たとえば司書が3階に出向いてブックトークなどの事業を展開するといったイメージの説明があった。千里文化センターコラボのような外に階段がある形だと、締め切られているためどんな本があり、どんな人が利用されているのかわからない。多くの人を持っている学習するためだけの図書館のイメージを変えるためにも開放的・有機的につながるような階段の位置など施設整備の工夫が必要だとの意見や、連動している学校再編、福祉事務所や老人福祉センター、駐車場に関する質問のほか、図書館の予約本のコンビニでの受け取りや、立川まんがパークを見に行ったらこられた市民からの意見もあった。

●委員長

委員の皆様事前に送付している提言(案)は、これまでの図書館協議会の議論を踏まえて、事務局が幾つかの章立てに整理したもので、本日はこの案に修正や追加があればそれを

反映させて成案にしたいと考えている。ただいまの説明について何か質問や意見はあるか。

●委員

提言（案）について、内容はある程度理解できるが、項目の組み立て方にいくつか違和感がある。たとえば4 pに「南部地域の図書館（庄内図書館・高川図書館・庄内幸町図書館）の現状を確認しておきたい。」とあるのにそのすぐ後から子育て支援に関する文章が続いている。ここには各図書館の現状把握がくるべきではないか。もう少し文章の組み立てを解りやすくしてはどうか。

●委員長

ここでは、本来なら（仮称）南部コラボセンターの4つの機能についての南部地域の図書館（庄内・高川・庄内幸町図書館）の現状の確認をするという文章のつながりになると思う。

●委員

二つ目は6 pの（仮称）南部コラボセンター基本構想においての箇所で上から三段目「地域課題を解決するために図書館の機能を活用した役割を担う」とあるが、どのような機能なのか具体的な記述がない。ここも漠然としていて理解しにくいところだ。

●委員長

南部地域の地域特性を踏まえた上での具体的役割についての説明は7 p中段にあるが、子育て支援への図書館機能活用と言う場合、南部地域の子育ての課題を踏まえた具体的役割を述べる方がいいかもしれない。この部分は、もう少し工夫が必要であろう。

●委員

提言（案）の6 pからの②学習支援機能と③学校連携機能の箇所については、特に気になる部分はなかった。余談になるが、（仮称）南部コラボセンターの市民説明会に参加したが、そこで様々な意見が出たが、これから実際の仕組みを構築していく上で取捨選択の難しさを感じた。

また、事前配布のフロア図と建物概要（案）は小さな紙なので、30m×80mという実際の大きさが具体的にイメージできないし、すべてがオープンスペースなのか不明なところがある。これらの点が気になる。最後に提言（案）の学校に関する部分については、うまく機能してその通りになればいいと思う。

●委員長

30m×80mというのは結構大きい、全くのオープンだとすれば配置に苦労はあるだろう。空間の生かし方、配置等難しい面も多いが、裏返せば期待が大きいということでもある。

●委員

提言（案）6 pからの②学習支援機能と③学校連携機能の部分だが、どちらも同じ様な内

容のような気がする。提言（案）の最初の部分の南部地域での図書館の役割についてで、たとえば自習スペースの提供、学生ボランティアによる夏休みの宿題の支援等の記述もあるが、学習支援機能の中身でも少し具体的な記載がほしい。また、学校連携機能の項については現状と提言がある程度リンクしていると思う。

さきほど委員の発言にもあった建物概要（案）の件でいえば、あまりにも大まかすぎてモデルになる建物があるのかなのか、またフロアでの人の動きなど機能の仕方が見えにくい。フロア図でみると1階なら子育て支援と図書館と保健センターがあり、つながりはなんとなく想像できるが、もっと簡単に理解できるものにした方がいい。

●委員長

この部分については、最初の案の段階で他の項目に比べ少しボリュームがあったので削った経緯がある。学校連携機能は公共図書館と学校図書館あるいは学校との連携、要するに組織としての連携に対応し、学習支援機能は図書館が主体として行う様々な子どもたちへの学びについての支援・サービスという位置付けで切り分けている。

事務局から学習支援機能の位置付けについてももう少し具体的に説明願う。

●事務局

今まで2回の協議会の議論をまとめている中で、個人への支援機能と学校組織等との連携機能を切り分けたが、まだまだ重複する部分もありそのあたりが苦慮した部分である。図書館が主体となった学習支援機能については、まだまだ緒に付いたばかりで目に見える形になっていない部分も多い。高川図書館や庄内公民館における学生ボランティアによる夏休みの宿題のお助け、しょうないREKでおこなっている子どもたちへの夏休みの宿題ヘルプや自由研究への資料提供サービスなど子どもたちが必要な情報が手に取れるということを基礎的なサービスとして行っているが、それらに加え（仮称）南部コラボセンターでの学習支援機能は、開校予定の小中一貫校とのつながり方や公民館や地域の学習支援を担っている各機関・各団体との役割分担やサービス内容およびフロア構成などが具体的に becoming 中で明確になってくると考えている。

●委員長

学習支援機能の重要さは、協議会の議論の中でも確認してきたが、先ほどの事務局の説明にもあったように公共図書館主体として自主的に展開されてきた事例はそれ程多くない。

（仮称）南部コラボセンターで押さえておくべき点は、図書館が主体的ではあるが同時に図書館だけで出来る事業にはならないという点である。実際の事例が少ない中で（仮称）南部コラボセンターに入る機関が決まり、それぞれの役割分担や連携機能を調整していく中で関係が形作られ、詳細が見えてくる性質の事業だと思う。

●委員

（仮称）南部コラボセンターの建物概要（案）のフロアコンセプトでは学力向上地域連携

拠点という考え方が出ていて、フロア図の2階部分を見ても学力向上の支援が行われている横で図書館があることから、「学習支援機能」が狭い意味での学力と捉えられ、それが図書館で可能なことなのかと問われることにもなりかねない。その意味で「学習活動の支援」という文言が望ましいと思う。

●委員長

学習支援というとストレートに学力向上に結びつくなど、いろいろな捉え方が出てくるといことですね。この項目については、そののところも考えていく必要がある。

●委員

こども園に勤務していることもあり「子育て支援機能」の項目に関しては、様々な家庭背景を持った方々が多い地域であり自己肯定感を持てる様な支援のあり方の必要性の記述もあり方向性としてはいいが、おはなし会のようなものだけで自己肯定感を持つ事ができるのか少し疑問のところもある。最近、勤務するこども園に市立図書館から担当者が来て、地域の0歳児と保護者に読み聞かせをした司書の感想として、子どもたちが同じような年齢の子どもたちの表情をうかがい知ることと保護者がそれを確認することの大切さを痛感したとの話があった。おはなし会等がもっときめ細やかになり親子の居場所や保護者同士話が出来るところになっていければと強く感じた。

学習支援については、7pに学年が上がるにつれ学習内容が難しくなり学習意欲の問題が出てくると書かれていて、学習支援の重要さがうかがえる部分である。それと勉学とは心の豊かな大人になるためのものとあるところも同意できた。また、小中一貫校が出来る中で気持ちの通じ合う学習支援のあり方の必要性も感じた。京都の小中一貫校を知る方の話では、縦割りの関係の中で年上の児童・生徒の学習等の取り組み方が年下の子どもたちのいいモデルになり、異年齢の児童・生徒が交流出来る場所でもあるとの話であった。9年間という期間は児童・生徒同士の顔も近くなるはずなので、そういう場になって欲しい。

●委員長

子どもを主役にして考えないとうまくいかない。先に子ども主役の考え方があり、それから学習支援や学校連携があると考えるべきだ。

●委員

提言（案）の中身については、文章の校正で気になる点を除けば異論はない。ただ、この提言（案）の文章が簡潔でなく読みづらいのが難点かなと感じた。たとえば、句読点や字体の整合性の問題や（仮称）南部コラボセンターという文言が頻出して読みにくいなど工夫が必要なところが何点かある。建物概要（案）では、複数の委員からの指摘もあったが広々とした空間の図書館イメージがわきにくいと感じた。出来れば外国の図書館を参考にして、真ん中にゆったり人が座り読書できるようなスペースがあるそんな空間構成の図書館になればいいと思う。

●委員長

確かに第三者に分かりにくい部分もあるので、少し削る努力をする必要がある。また、指摘の字体の統一性の無さ等も、体裁が悪いと最初から読む気がおきないこともあるので、修正して体裁を整えた方がいいだろう。

●委員

提言（案）が、こういう形でまとまるとは考えていなかった。そのことに関しては、後ほど発言させていただくが、案の中身については議論の内容はほぼ網羅されているが、文章的におかしい部分がある。提言（案）の「3（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能について」の最後の箇所で、「これらの状況をふまえ、図書館の果たすべき機能について図書館の4つの機能を中心とした論点で議論を深めることを通して、多様な世代に利用され、地域の課題解決につながる（仮称）南部コラボセンターのあり方について明らかにしていきたい。」と結んでいる。この文言は、前の2の項目で既に言及されている基本構想と重複しているのではないか。ここでは、その基本構想をやっていくうえで図書が何をやっていくのか、どうあるべきかが問われており、この視点から諮問されたのだと考えているのだが。

●事務局

委員ご指摘の通り、図書館の果たすべき4つの機能の議論を通して、多世代の利用・地域課題解決につながる（仮称）南部コラボセンターにおける図書館機能について議論していくとすべきであった。

●委員

（仮称）南部コラボセンターの中で図書館の4つの機能をどう展開し何をしていくべきかを考えていくことで、その基礎・土台の役割を図書館が果たしていくことになると思うが、この提言（案）には図書館の一般論しか述べられていないと感じた。（仮称）南部コラボセンターで図書館が関係機関・団体に様々な支援等で何ができるかではなく、考えていくべきことは、そこに入るであろう老人福祉センターや学校連携および子育て支援等の関係機関に図書館をいかに使ってもらい、どう利用してもらおうかと相談窓口や地域の専門家にどうつなげていくかが重要だ。

もう一点、建物については項目を立てるべきだと考える。野畑図書館や千里文化センターコラボ等の建築時に関わった市民団体の経験者からは、設計図が出てからでは遅きに失した場面もあったと聞き及んでいるので、建物が出来る前の設計の段階で具体的なイメージを論じていく必要がある。

最後になるが、図書館、図書館と声高に言うのではなく、南部コラボに来たら自然に図書館に行ってしまう様な施設になればと思う。

●委員長

連携といった時、図書館が他の機関と一緒に何かを行うイメージではなく、既にある活動やいろんな組織が仕事をしていく上で、図書館の持っている働きが加わればより効率的・効果的になる可能性がある。図書館の持っている地域の情報を集めて整理して発信していくという本来持っている図書館の働きが、たとえば子育て支援などで図書館の利用により結果として子どもたちにより充実した支援になることも考えられる。

●委員

各機関の具体的なつながり方を示せば、もっと解りやすいものになるのかも知れない。

●委員

提言（案）については、これまでの議論がほぼ踏まえていると思う。

図書館の学習支援機能については、図書館の担う学びと学校教育の担う学びは違う。学びは学習意欲が基本にあって、将来への希望・勉強するための動機等、学習意欲の有無やその強弱で将来の形は変わってくる面があり、図書館での学びの支援もこういうところと深く関わってくると思う。図書館としては、学びの支援の具体的なビジョンは持つべきで、それが発展して他機関との連携等での役割も明確になってくると考える。図書館での学びは幅広く、子ども同士の交流や多世代との交流を通して学びの意欲も大きくなっていく可能性がある。学力調査等で言及されている学習意欲の低下についても、その展望や学ぶための動機付け等で図書館の資料を活用することや学校以外の人たちと交流していくことでよりよいものになっていくだろう。

●委員長

各委員の発言を聞いた上で何か意見はあるか。

●委員

先ほどの委員の発言で、この提言（案）の読みづらさは、複合施設の中での図書館のありかたがうまく述べられていない点ではないかと感じた。

●委員

たとえば7 p の中段あたりで、「今の子どもたちは学校図書館の充実もあり図書館の使い方や調べ学習などに親しんでいるが、親世代には図書館は本を読むところという認識程度で、何かを調べるために利用するという発想を持つ市民は少数派ではないか。」と断定的に言い切るなど、図書館への思いのこもり過ぎた部分と抽象的になった部分が混在しているため読みづらい面もあった。

●委員長

もう一度、図書館とはどういう立ち位置でどういう仕事をしていくのか、第三者の方にも容易に理解できるような形に、本日出た意見も踏まえ練り直していきたい。本年度の協議会は

これで終わりだが、委員の方々とはメール等で意見交換を進めながら、それをフィードバックして3月中に提言としてまとめる。ただ、まとめあげた提言の提示等の進め方については、私と事務局に一任いただきたい。

●委員

提言（案）の「おわりに」の最後の段落に、「今後も継続して市と市民が南部地域にふさわしい図書館のあり方をともに考え、……以下略」との記述があるが、（仮称）南部コラボセンターは、これからの豊中の公共施設の再編成の試金石になる施設でもあるので、「この施設にとどまらず、未来につながる大きなビジョンを持って取り組んでいくことを望む」というように、将来につなげていく文言も必要であろう。

●事務局

この提言（案）には、基本的に事務局の考え方や言葉などは一切入っていない。委員の方々の意見を組み立てたが、文章における違和感については事務局で調整させていただく。

また、フロアイメージ図が出てきたのはこの2月に入ってからで、各施設の配置等がわからないまま議論を進めてきたことも、提言（案）の分かりづらさの一因だと考えている。

●委員長

計画が進んでいく中での議論は、抽象的にならざるを得ない部分もある。また今の段階では、最終的にきまった形ではなく、これからの可能性という意味で、提言はある意味方針という形でしか出せないものなので、その点も含めまとめていきたいと考えている。そのあたりは、ご理解いただきたい。

次の案件に移る。平成29年度事業計画及び外部評価について、事務局から説明願えますか。

●事務局

平成29年度事業計画について

（仮称）南部コラボセンターについては、今年度の協議会での提言を踏まえて検討を進める。

一つ具体的な形としては、このフロアイメージを元に各部局の床面積の調整等を来年度に行う予定。開設時期は平成33年、北校の開校と同時期を予定。

広域利用については、現在豊能地区3市2町、及び豊中と吹田の2市間で広域連携を進めている。来年度は、北摂地区7市3町で広域利用開始を進める。650万冊の資料がどの市民も利用可能。また、同時期に大阪市と庄内図書館と館限定の広域利用の展開も考えている。大阪市の図書館は誰でも利用可能で、豊中市民は大阪市立図書館を利用できる状況にある。庄内図書館には淀川区の方を中心に既に閲覧利用などがあり、以前から要望があった。庄内図書館の現状等を勘案して、庄内図書館限定で大阪市との広域利用も実施したいと考えている。

平成29年度に実施を予定している外部評価について、説明と提案をさせていただく。豊中市立図書館では、図書館運営を振り返り効果的・効率的な運営と、図書館サービスの向上および地域との情報共有を図る仕組みとして、「豊中市立図書館評価システム」を導入し、平成20年度から自己点検評価・外部評価を実施し、自己点検評価・外部評価のサイクルを2回実施するなかで、課題や今後取り組むべき方向性を見出し、業務の改善につなげてきた。

「豊中市立図書館の中長期計画」（豊中市立図書館グランドデザイン、以下「グランドデザイン」）の策定を機に、毎年度の図書館事業の進行管理については、「グランドデザイン」を優先させることとなり、外部評価のサイクルも3年から5年と間隔をあけるように変更を行い、来年度がその外部評価の実施年度となる。

そこで、来館者アンケートの実施と5年間の図書館事業を振り返る自己点検評価報告書などを評価検討の材料として、図書館協議会に属する部会という位置づけの「図書館評価部会」を年度後半に開き、検討や評価をいただきたい。

図書館評価部会の委員構成は、5名となっており、前回は図書館協議会から2名、市民公募委員1名、NPO法人から1名、豊中商工会議所から1名、という構成であった。部会長は図書館協議会委員長が協議会に諮って、部会に所属する委員の内から指名することになっている。

まず、前回平成24年度に行った外部評価関連の資料が3種類あり、一つ目は「豊中市立図書館の利用について」という来館者アンケート調査の用紙。二つ目は「生涯学習と生涯スポーツの推進に関する市民意識調査 スポーツの推進と図書館の利用について」、これは前回スポーツ振興計画にかかるアンケートに相乗りした郵送市民アンケート調査の用紙。三つ目は、「平成21～23年度豊中市立図書館評価システム自己点検報告書」で、本日配布のA4の図書館評価項目表の、各項目別の数値目標に対する達成度を振り返り自己点検し報告したものである。

前回の外部評価では、来館者アンケートと郵送市民アンケート、そして自己点検評価報告書などを材料として、図書館評価部会で検討、評価をお願いした。来年度も来館者アンケートについては、市内の各図書館で実施予定。ただ、郵送市民アンケートについては、今年度（28年度）に豊中市が実施した市民アンケートで置き換えたいと考えている。それが四つ目の資料で、昨年7月に行われた「豊中市公共施設等総合管理計画策定にかかる市民アンケート結果報告書」で、豊中市HPに現在掲載されている。4p「公共施設の利用状況について」の項目の問7、問8、問9などに図書館の記述がある。

なお、5つ目の資料のA4の図書館評価項目表の実際の数値については、年報「豊中市の図書館活動」統計・資料編に掲載している。この5年分の各項目の数値および取り組みを振り返った自己点検評価報告書は、できれば前回よりもっと簡潔でわかりやすいものを目指しているので、ご助言をお願いします。

●委員長

豊中市の図書館評価システムは全国的に先駆けたしくみであり、これは以前の協議会委員の方々の努力の結果でもある。来年度の外部評価もきちんとしたものになりたいと考えている。

事務局からもあったが部会に協議会から2名選出し、部会長を指名しなければならない。

ここでその件について諮りたい。委員長としては図書館ことについても経験のある瀬戸口委員に部会長をお願いしたいと考えている。いかがだろうか。(他の委員同意)

●瀬戸口委員

適任かどうか自信はないが、図書館評価討部会で多角的な評価ができる力になれるよう努力する。

●委員長

自己点評価報告書は、図書館のさまざまな事業において自分達で自己点検・評価し業務改善を行っていくための指針となるもので、これが妥当かどうかを判断するのが外部評価である。自己点検評価の目的は、自分達の仕事をもう一度見直し、その上で必要に応じて事業の取捨選択を行っていくことにある。しかし、さまざまな所で見ていると、自分達の仕事の見直しをする契機であるにも関わらず、点検評価すること自体が目的になっている事が多い気がする。この分厚い資料を見ても、職員がこれだけで消耗するのではないか心配する。大切な事は、これを基にして図書館の実績をよりわかりやすく理解してもらうことと数値の意味の解説に力を注ぐ必要がある。また、項目の取捨選択も含め整理したほうがいい部分もありそうだ。委員の方々のご意見は？

●委員

点検が21年度から23年度。今回が28年度から29年度。この間に私が関わるブックプラネット推進事業だと、内容や状況が進んでいる。進んでいる事実を踏まえた上での評価が必要だと感じた。

●委員長

自己評価は各図書館で毎年行っているが、外部評価は中長期計画、「グランドデザイン」の一貫ですのでスパンの取り方はそもそも違うことになる。

●事務局

図書館評価システムの評価作業と「グランドデザイン」との対応を少し補足説明する。「グランドデザイン」の目標時期は平成35年度で、そこに向けての10年間の取組ということで進めている。期間の丁度半分が平成30年度なので、29年度に外部評価作業をした中身を30年度の「グランドデザイン」中間地点で顧みて洗い直すことで、図書館外部評価と「グランドデザイン」が繋がっていくと考えている。

●委員長

平成29年度については図書館評価部会を設けて進めていく、ということでご理解ください。

では、その他の項目について報告してください。

●事務局

お手元の「大人のための図書館お仕事体験ツアー」についてご説明させていただく。

こちらについては庄内図書館で毎年実施し、今年で3年目となり、月末の休館日に図書館でのお仕事、たとえばフィルムコーティングや、さらには今後図書館を利用しやすいように検索の方法などを知っていただく機会としている。今年は募集開始2時間で午前5人、午後5人の枠がうまった。

今回は図書館協議会でもご議論いただいた図書館サポーターの募集とも関連付けて、参加者に今後図書館で活動の希望する方があれば、3月に予定している研修会にきていただき、その後サポーターとして登録の上、定期的な活動につながればと考えている。同様に北部の野畑図書館でも3月11日（土）に、「大人のための図書館お仕事体験ツアー」を実施ののちに、サポーター募集を行う予定であるので、あわせてご報告させていただく。

また配布の「世界のしょうない音楽祭」については、日本センチュリー交響楽団、大阪音楽大学、庄内図書館が事務局となるしょうないREKと文化芸術課が共催し今年で3年目になるが、音楽ワークショップの発表に合わせて、庄内小学校のエイサーなど地元の市民にも楽しんでもらえるようなプログラムになっている。

次は、今年度、子ども読書活動連絡会から生まれた「りんごの棚」展示セットの紹介である。

図書館では、このたび、活字を読むことが困難な子どもたちの読書について理解するための展示セットを作成し、子ども読書活動推進事業のひとつとして貸し出しを始めた。布絵本や点字の資料、大きな活字の資料など、施設やスペースに合わせて必要なものだけ申し込むことができる。

本日の資料にはないが、1月27日金曜日の月末休館日に、豊中図書館未来を考える会の支援を受け、市民協働研修を実施した。企画から市民と図書館がどのような研修が必要かを考え、ほぼ半年前から1か月に1回程度の打ち合わせをし、図書館サービス計画研究所仁上幸治さんを講師にお招きし「図書館PR実践講座」を開催した。図書館として味方を増やすためにはどのような工夫が必要かについての講義の後、実際にこれからやるべきことなどについてワークショップを実施し、また半年後に振り返りを実施する予定となっている。

●委員長

各館でPRをやるということですね。

●事務局

PRを切り口としているが、具体的にPRというとポスターやチラシということになるが、もう少し広い意味でお話いただいた。図書館がわが町にあって良かったと思えるような図書館の見せ方や、図書館を利用していない市民にどうやったら振り向いてもらえるかについてのブランディングや、利用者のセグメント化という考え方等についてである。ワークショッ

プで出た内容を各館持ち帰り整理した上で、実際に取り組んでみてどうだったか、その反省と振り返りの会を半年後に持ってみようということで、切り口はPRだが、少し広い意味での広報というものの実践講座を実施いただいた。

●委員長

委員の方々が図書館でそういったものを目にすることがあれば、感想を頂きたいと思う。

外部評価の時に出ていた、市民へのアンケート調査は行わずそれに替えてということで、公共施設の利用について、4 pの所を再確認願いたいですが、豊中市の各公共施設の利用状況が掲載されている。最多の利用は図書館。他の自治体もその点は同状況だと思う。実感は無いが、図書館は市の施設の中では一番利用が多く、やはり重要な施設である。利用割合は図書館39.5%とほぼ4割ある。利用されていないことに着目されがちだが、これほど頻繁に利用されている。この事実は重要だ。ただ、利用したいが利用できてない施設の理由として、豊中の図書館は充実しているほうだが、地理的不便等は27%の数字である。図書館の利用のされ方を考えていくときにこのことは押さえておく必要がある。

●委員

先程の研修についてですが、研修内容はHP等に公開する予定はあるか。

●事務局

今のところ「図書館活動」の中で職員研修として掲載する予定。HP等の公開については振り返りの時に考えたい。

●委員長

では、これで平成28年度（2016年度）第3回図書館協議会を終了する。